

フランス語を活かして アフリカに貢献

15歳までフランスで育ち、高校生の頃からフランス語を活かせる仕事に就きたいと考えていました。初めてJICSを知ったのは就職活動をしている時。当時まだ開発途上国や国際協力は遠い世界のように感じていましたが、フランス語を使って世界に貢献できると思い、JICSに新卒で入団しました。

入団1年目は、フランス語圏のセネガルとブルキナファソの案件を複数担当しました。入団3年目に2年3カ月にわたりブルキナファソに滞在し、首都近郊の学校建設などに携わりました。現地では、入札会の開催や選定した施工会社との契約手続き、現場視察、資金・労務管理など多岐にわたる業務を行いましたが、請求書取り付け一つに時間がかかったり、工事のスピードが遅かったり、思うように進まないことばかりでした。でも、完成した学校に通う子どもたちの笑顔を見て、やりがいを感じました。

秋山 翔吾さん
業務第二部地域第六課

コミュニケーションは 現地の言葉で

2019年4月にブルキナファソから帰国し、現在は食糧援助案件などを担当しています。食糧援助は、食糧不足に直面する開発途上国に、コメや小麦などの穀物を支援する無償資金協力です。JICSは調達代理機関として、国内での食糧の調達とその後の現地での配布状況などをフォローします。

業務を進めていく上で重要なのは、現地の人々と良好な関係を築くことです。フランス語圏では英語が通じないことも多いため、フランス語でのコミュニケーションを大切にしています。また、施設建設案件の場合、設計や施工管理など技術面は他社が担い、JICSは入札や契約などを担当しますが、実際に現場に行って実情を把握した上でプロジェクトを進めるプロセスは、特に重視しています。これからもフランス語を活かしながらスピード感を持って「援助をカタチに」していきたいです。



工事が終わり、家具がすべて搬入されたことを確認し、校舎の目録を校長先生にお渡しした

Work

業務第二部
地域第六課

業務第一部
施設第三課

JICS入団

4年制大学
外国語学部卒業



一般財団法人 日本国際協力システム (JICS)

設立：1989年
基本財産：3億8,700万円
従業員：130人
本社：東京都中央区
海外拠点：アジア、中東、アフリカ、中南米など18カ国（ローカルスタッフ所在地）
事業分野：民間セクター、防災、インフラ、情報通信技術（ICT）、資源・エネルギー、水と衛生、環境・気候変動、貧困削減、平和構築、文化・スポーツ、教育、保健・医療、ジェンダー、水産、農業・農村開発
募集職種：総合職
募集人数：若干名
住所：〒104-0053 東京都中央区晴海2-5-24 晴海センタービル5階
TEL：03-6630-7870
MAIL：jinji@jics.or.jp
HP：https://www.jics.or.jp



完成した学校の前で、喜び子どもたちと記念撮影

「援助をカタチに」
日本初の調達専門機関

日本国際協力システム（JICS・ジックス）は、政府開発援助（ODA）の技術協力や無償資金協力の実施支援を目的に、1989年、日本初の調達専門機関として創立された。JICSが担う「調達」とは、開発途上国のニーズに適した資機材や輸送・設計・施工といったサービスの選定・手配などを行うことで、国際的なルールに沿って、中立性、公正性、透明性を重視した「調達」に尽力している。

モットーは「援助をカタチに」。事業範囲は世界150カ国・地域に上り、例えば、地雷除去の問題を抱えるカンボジアでは、開発中だった日本の地雷除去機材をタイミングよく調達し、内戦後の復興に向けて大きく貢献した。また、アフガニスタンの戦後復興支援やインド洋津波災害でも、いち早く現地に入り、本格的支援の道筋を付けた。

現場ニーズに即応する
「インテグレーター」

食糧、医療機器・薬、燃料、農業・建設機械、車両。ありとあらゆるモノやサービスを調達してきたJICSの強みは、刻一刻と変わる現場ニーズへの即応力だ。ニーズを的確に捉え、支援に必要な多方面のプレーヤーの参画を得るとともに、日本の「顔の見える援助」を多数実現してきた。

JICSは国際協力に関わるステークホルダーをつなぐことで、より効果的に事業や案件をカタチにし、被援助国の経済社会開発に貢献する「インテグレーター」の役割を担おうとしている。

求めるのは、高度な問題解決能力とコミュニケーション能力に加え、新しい事業領域の開拓に挑む積極性。OJTにより調達のプロを育成する他、実務研修にも力を入れており、語学試験には受験料補助制度がある。福利厚生や介護・子育て支援も充実している。